

公益の風 #62



東北公益文科大学大学院 修士課程修了

門 叶 美 咲

私は、東北公益文科大学大学院にて、経済学の理論と手法により、酒田市をモデルとしたコンパクトシティの集約地を求める分析を行った。

この研究に取り組むきっかけは、庄内地域で大学・大学院時代を過ごし、地方の人口減少を目の当たりにしたことから、人口減少に適応した地方の在り方について関心を持ったことである。

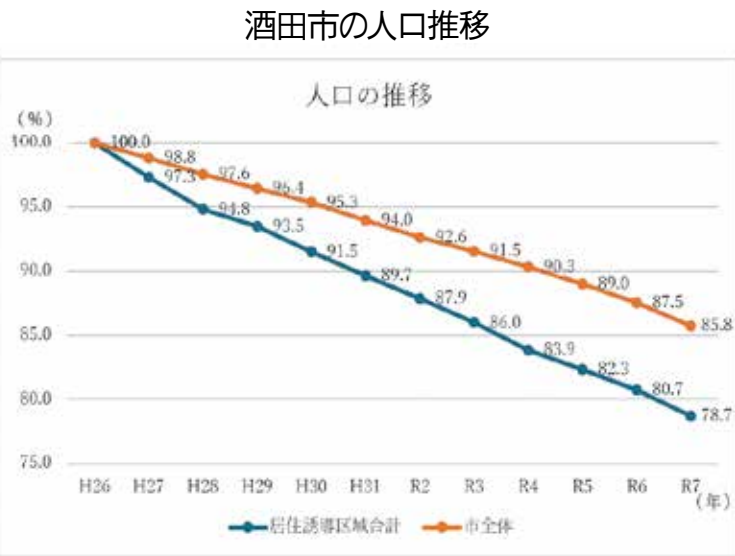
人口減少に適応した地方の在り方について、学びを深めると、コンパクトシティは地方が実現すべきものであることがわかった。しかし、地方公共団体が設定する集約地は、公共施設の立地や歴史的・文化的側面を基に設定していることが多く、必ずしも科学的根拠

地域課題をエビデンスに基づいて考える

に基づくものとは言い難い。酒田市では、中町エリアをコンパクトシティの集約地に設定しているが、実際の中町エリアは店舗の閉店や人口減少が進んでいることから、地方公共団体が設定する集約地に対して疑問を持ち、研究のテーマに決めた。

コンパクトシティの集約地を求める先行研究は、コンパクトシティに必要な要素に関する研究や、対象や指標（商業・交通等）を限定した研究が多く、市全体を対象に複数の指標を用いた研究は見られなかった。そのため私は、経済学をはじめとする理論と手法により、先行研究に基づいた人口密度・生活利便施設・交通などの複数の指標から酒田市全体を対象に集約地を求める分析を行った。その結果、人口密度や生活利便施設等を中心に集約地を求めると、みずほ町周辺エリアが集約地として望ましいことがわかった。

今回、分析を進めるにあたり、酒田市企画部都市デザイン課から各種施設の立地に関するデータや誘導費用に関する情報の提供等を受け、酒田市財政課から公共施設の統廃合に関する情報の提供等を受けた。また、酒田市企画部都市デザイン課には、本研究に関する



出所：酒田市住民基本台帳資料（各年版）1月31日現在の人口を基に筆者作成。

フィールドワークや酒田市市長に対して本研究を发表する場などを提供していただき、有益な指摘をいただいた。このような活動や研究ができるのは、地域との関わりが強い本学の強みであり、非常に貴重な経験だったと思う。

私が大学院で得たものはほかにもある。一つは、経済学を中心とした学術知識である。大学院では、学部時代から学んでいた経済学のほかに統計学などの興味がある講義を履修し、様々な理論や手法をより深く学ぶことができた。特に経済学に関する講義では、経済学が利用される事例から理論や手法を学び、実践課題とした経済学を使用して身近な問題解決に取

り組むことで、社会問題をエビデンスに基づいて考える力を鍛えることができた。

更に、年齢や所属の異なる社会人院生と共に学んだことは、コミュニケーション能力を向上させ、社会人ならではの視点や意見を取り入れることができた。

私は大学院生の二年間で、学部時代から大きく成長したと感じている。社会問題をエビデンスに基づいて考える力や、コミュニケーション能力の習得は今後の人生においても重要な力になると思う。修了まで導いてくださった皆様には感謝の念は尽きない。大学院で得た知見を活かし、社会の人々のために日々精進していきたい。